

全面開舎になりました

学校再開から約1か月遅れて6月29日から大部分の生徒が寄宿舎に入って学校生活を送ることとなりました。

この間、半数近くの生徒のみなさんは毎日自宅から、JRや西鉄電車あるいは地下鉄やバス等を使って通学してきました。バスを降りて学校までの坂道を登ることはとても大変だったと思います。私自身、数回、バス停まで一緒に歩きましたが、校門までの道、校舎が見えるまでの道と汗だくになりました。生徒のみなさんは、寄宿舎生活とは違った「学び」をたくさんしたことと思います。

そして、これまで、子ども達の通学を支えてくださった保護者の皆さまのご協力を改めて心から感謝いたします。

さて、全面開舎に向けた取り組みとしては、先生方と寄宿舎の日課を見直すことから始めました。食事の時間、入浴の時間、洗濯の時間等では、グループを分割し少人数化して密を防いでいます。

また、自由時間は生徒自身にも自覚をもってもらいながら、食堂なども開放して自由時間を安全に過ごせる場所を確保するなど行いました。

もちろん、検温や健康観察、手指を含めた消毒の徹底や部屋の換気など学校のできる限りの対応をしていきます。

生徒の健康と安全を職員一体となって確保していきたいと思っています。

生徒の中には、4か月寄宿舎生活を送っていない生徒もいます。例年と違い、1年生と上級生の関係性も十分に築かれていません。そういった点で、これから自分はちゃんと寄宿舎で生活できるのかなど不安をたくさん持っていることでしょう。

16歳から18歳までの青春真ただ中のセンシティブな（感じやすい）生徒たちです。しっかりと寄り添って受け止めていきたいと思っています。



校長 牛島 大典